

標 題 : Dietary patterns and the risk of major adverse cardiovascular events in a global study of high-risk patients with stable coronary heart disease.
安定型冠状動脈性心疾患のある高リスク患者の世界的研究における
食事パターンと重大な心臓血管系有害事象のリスク

著 者 : R. A. Stewart, et al. (ニュージーランド オークランド大学
オークランド市立病院 Green Lane Cardiovascular Service)

掲 載 誌 : Eur. Heart J. 2016 Jul 1; 37(25): 1993-2001

要 旨 :

目 的 : 安定型冠状動脈性心疾患のある高リスク患者で、簡単な自己申告の食品頻度アンケートで評価した食事パターンが重大な心臓血管系有害事象 (MACE) と関連するかどうかを判定すること。

背 景 : 地中海食事パターンは低い心臓血管系死亡率と関連した。
西洋の食事によくみられる食品が心臓血管系リスクと関連するかどうかは、あまり確かでない。

方 法 : 「ダラプラディブ治療の開始によるアテローム性動脈硬化性プラークの安定化(STABILITY)試験」に参加した 39 カ国からの安定型冠状動脈性心疾患のある患者 15,482 人(97.8%)(平均年齢 67±9 歳)が開始時に、ありふれた食品に関する質問を含む生活様式アンケートを完了した。

全粒穀物、果物、野菜、豆類、魚とアルコールの摂取増加および少ない肉について地中海食事スコア(MDS)を計算し、そして精製穀物、菓子とデザート、加糖飲料とフライ食品の摂取増加で「西洋食事スコア」(WDS)を計算した。

MDS または WDS と心臓血管系死亡、非致死性の心筋梗塞または非致死性の脳卒中で定義される MACE の間の関連を、多変量 Cox ハザードモデルで評価した。

結 果 : 中位数 3.7 年の追跡後に MACE は、MDS \geq 15 の被験者 2885 人の 7.3%、MDS13-14 の被験者 4018 人の 10.8%、そして MDS \leq 12 の被験者 8579 人の 10.8%に起こった。

全ての共変数を調整後に、MDS $>$ 12 での 1 点上昇は低い MACE と関連した (+1 カテゴリー HR 0.95、95%CI 0.91-0.98、P=0.002)。

WDS と MACE の間には関連がなかった (調整モデルで+1 カテゴリー HR 0.99、95%CI 0.97-1.01)。

結 論 : 西洋の食事に典型的な不健康な食品を避けるよりも、健康的な食品の多量摂取が冠状動脈性疾患の二次予防にもっと重要であると思われる。
